

# 東京の産業と教育

## 会の目的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

## ものづくりに対する価値観の育成

東京書籍(株) 技術家庭・情報編集長 提橋 正一



日本は、技術立国日本あるいはものづくり日本などと称されていますが、果たして真のものづくり国と言えるのでしょうか。我が国の製造業に従事する就業者数は1,165万人であり、就業者全体の18.2%を占めます(2007年労働力調査)。しかし、若年層の入職者数は低水準を推移し、さらに離職率も高いため高齢化が進行しています。

また、消費行動の場面で考えると、単に「○○社の製品だから」「安いから」で製品を選択・決定していませんか。購入という行為はその製品の価値を認めることです。同様に、その製品に使われている技術に価値を与え、技術の発達を促すのです。わたしたちは、技術立国日本と言うに相応しい価値付けができているのでしょうか。この価値付けを正しく行うために必要な「技術を適切に評価し活用する能力と態度」の育成を目指して、学習指導要領が改訂されました。

平成20年1月の中央教育審議会の答申において、中学校技術・家庭科[技術分野]改善の基本方針の一つに、「ものづくりを支える能力などの育成を重視する視点から、創造・工夫する力や緻密さへのこだわり、他者とかかわる力(製作を通じた協調性・責任感など)及び知的財産を尊重する態度、勤労観・職業観などの育成を目指した学習活動を一層充実する。また、技術を評価・活用

できる能力などの育成を重視する視点から、安全・リスクの問題も含めた技術と社会・環境との関係の理解、技術にかかわる倫理観の育成などを目指した学習活動を一層充実する。」とあります。

ここで大切なことは、「ものづくりを支える能力」や「技術を評価・活用する能力」の育成を重視している点で、これらの能力を主権者として必要な素養の一つとしてとらえていることです。製品の購入の例で言えば、「その製品に備えられている機能はすべて必要なのか」「その製品に使われている技術は環境にやさしいのか」などの視点から製品(技術)を適切に評価して、選択することができるということです。

これまでは、学習の範囲を中学生に身近な生活に留めていましたが、新学習指導要領では広く社会に目を向けるようになりました。社会で使われている技術に対して、その技術の在り方や活用の仕方などを客観的に判断・評価し、主体的に活用できる人間の育成を目指しています。

しかし、子どもたちにとって技術は身近ではありません。その存在に気付いていない、意識していないのです。まずは、技術に触れることが先決です。そのためには、地域・社会の協力が不可欠です。わたしたち大人が、子どもたちに積極的に働きかけることが大切だと考えます。

〈講演〉

## 世界に通じる“もの”づくり

講師：(株)成立 代表取締役会長 春 田 昌 幸 氏

開催日：2008年6月10日（火）15時～  
都立工芸高等学校・視聴覚室



皆さん、こんにちは！

私は、現在76歳です。品川区西五反田にあります「成立」という精密機械加工会社の代表取締役会長をしております。当社の創業が昭和12年ですから、70年以上の歴史があります。私自身、60年前の15歳のときに、親父がやっておりました今の会社に見習いとして入りました。今も現役のつもりで頑張っています。

ご承知のように、精密加工技術は日本人の得意とする分野であり、そのお陰で、私も永く生きて来られました。現在、当社では東京の本社工場のほかに、秋田県の田沢湖町と岩手県の花泉町に工場を持ち、精密加工部品の設計から製造までを行っております。主にコンピュータの本体・磁気ディスク・周辺端末機などの精密部品をはじめ、医療・航空・半導体製造などの分野にその技術が活かされています。

### ○手に職（技術）をもつ

東京は土地が狭く、汚れるからと言って、なかなか若い人が来てくれない。そのことは、当社が東北に工場を進出するきっかけになりました。昭和56年に秋田県の田沢湖町に、昭和60年には岩手県の花泉町にそれぞれ工場を建設しましたが、当時の東北地方には男性の働く場所が少なかったため、土地の人たちからは歓迎されました。とくに、当社のような製造業は喜ばれました。

そこで、私は若い人たちに「仕事を通して資格を取りなさい。」「男は城（家）をもちなさい。」と、ことあるごとに言ってきました。その結果、当社では1級や2級技能士の資格を持っている者が8割近くいます。

私自身、平成9年に高度熟練技能を有し後継者育成活動に協力した人を対象者とした「東京都技能継続推進者」の第一号認定を受けておりますが、当時から、従業員の資格取得のためには惜しみな

く援助をしてきました。

### ○自分の仕事に自信をもつ

そのうち、中国がものづくりに力を入れてきましたので、これ以上、生産を拡大することを止めました。今では、東京の本社工場と2つの地方工場が連携を図りながら、互いの技術力の向上や人材育成に努めております。

我が国は、天然資源もなく、「もの」を作って稼ぐしかない国ですから、1/1000ミリ単位に近づける技（匠の技）、つまり世界に通じる「もの」を作っていくしかないわけです。しかし、技術・技能は1～2年では身に付かない。一人前になるには少なくとも5～6年はかかります。この点、東北の人は、辛抱強く、何事にも熱心に取り組むので、一人前になるのが早い。今でも高校を卒業した若い人を採用し、一人前になるまで仕込んでおります。

常日頃から、私は従業員に対し「自分の仕事（技術）に自信を持ちなさい。」と言っています。

その裏付けになるのが資格です。私が住んでいる品川区や大田区には、自分の仕事に誇りを持って、生きている人が多くいます。日本のものづくりは、それらの人たち（職人）によって支えられていると言っても過言ではないと思います。

### ○何をしたいか、どう生きるか

世の親たちは、子供に対し「勉強しろ、勉強しろ」とよく言いますが、子供が何をしたいのか、この先どう生きたいのかを聞かないで、ただ勉強しろ、大学に進学しろとしか言わない。

昨今、私どもの工場でもコンピュータで制御する工作機械が使われていますが、基本の技は、体で覚えて叩き込まないとダメだと思います。そのためには、若いときから同じことを繰り返しやることです。大学でいくら豊富な知識を学んでも、ものづくりはできません。知識があるだけでは、

形にすることはできないのです。

私は、先ほども申しましたように、15歳でこの世界に入り、46歳で叔父から社長職を引き継ぎました。その間、親父が52歳で亡くなり、さらに兄貴が20歳で亡くなったことにより、一家の柱として必死で働いてきました。当時、大田区にはキャノンやIBMなどの大企業の工場がありましたので、「当社ではこういう加工ができます。」と言って、自ら営業を兼ねて、売り込みにも歩きました。

我が社のような中小企業に、IBMや東芝、日本電気などの国際的な大企業から部品の注文が来るのは、1/100～1/1000の精度で機械加工ができる技をもった従業員（職人）がいるからです。我が社の応接室には、これらの大手企業から授与された品質優秀賞の賞状や従業員が獲得した技能検定の資格証明書が飾ってあります。これらは会社としての誇りであり、また従業員の励みになっています。

経営者は、常に自分の会社（つまりは従業員）のレベルアップを考えることが重要です。一緒に仕事をする従業員の将来を考え、また幸せを願って、「こういう会社にするのだ。」「従業員に資格を取らせ、自分の腕に自信を持たせる。」という明確な目標を持たなければなりません。最近では、「ただ従業員を働かせればいい。」と、安易に考えている経営者が多いのではないのでしょうか。

それでは、この辺で私の話しは終わります。残りの時間は、皆さん方からの質問にお応えしたいと思います。

Q1：1/1000ミリを削りだす極意（コツ）とは何でしょうか。

コンピュータが発達し、製造物は全てコンピュータで制御された工作機械で作られていると思いがちですが、これ位の精度になると、長年の経験や勘が必要になります。例えば、金属は削るとき熱を発生し、膨張したり、反ったりする。それらのことを計算したうえで加工を行う必要があります。しかし感覚的なことになると、言葉や文章では伝えられないことが多い。何回も何回も自分でやってみて、身体で感じ取るしかない。簡単なものでも2～3年はかかります。昔の人は「勘

で覚えろ」とか、「手で考えろ」とかよく言っていました。そのことは、いまも変わらないように思います。

Q2：中国が安いものを大量に生産する中で、日本ものづくり産業が生き残るにはどうすればよいか。また、そのための工業高校の役割について、お考えをお聞かせください。

我が国は資源も何もなく、原材料を外国から輸入している国です。しかし、日本人は優秀だから、若い人に技術（技能）だけはしっかりと身に付けさせたいと思っています。かつて、日本の技術の強さは、安くて品質のいいものをつくることにありましたが、その地位は中国やほかの国に取って代われ、今は、いかに付加価値（多機能）の高いものを創り出すかにあります。そのためには、ものを作りだす技術（高度な技能）が不可欠になります。その代表的なものが旋盤やフライス盤を使った機械加工技術であり、学校において、加工に必要な基本動作をしっかりと覚えさせ、正確に、手早く、何度でも同じことができるようにすることでしょう。

Q3：ローテック（熟練技能）を若い人たちに残すには、どうすればよいと思いますか。

私は、若い人たちがものを作ったり、汚れる作業をすることを嫌っているとは思いません。今の時代は、子供のときからものを作る楽しさや喜び、さらに感動を体験したことが少ないのです。ものづくりの原点は、「やってみることにより、ものに触れて、何かを感じること」だと思います。

\*当日、講師の方から配布されました資料等をもとに、一部補足させていただきました。



## ものづくり教育を通じて 産業人材の育成を目指す

東京都立産業技術高等専門学校  
ものづくり工学科長 教授

井上 徹

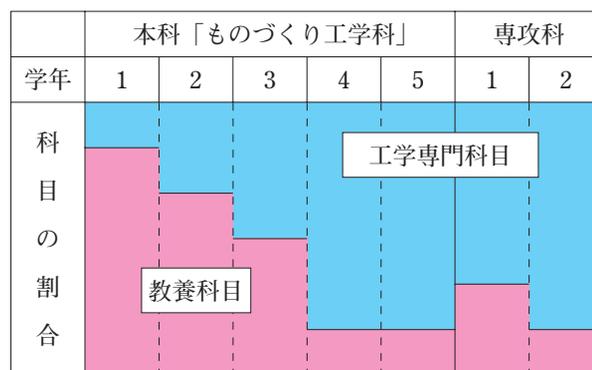


東京都立産業技術高等専門学校は平成18年に品川区にある東京都立工業高等専門学校と荒川区にある東京都立航空工業高等専門学校が統合して発足し、品川と荒川の2つのキャンパスを擁しています。それぞれ約45年の伝統のある両高専が学科の再編を行い、21世紀のものづくりを担う人材の育成機関として再スタートしました。高専では5年間の学生生活を過ごすことになります。その間、一般知識はもちろんのこと、専門知識と実践的技術をしっかりと身につけることが出来ます。卒業時には「準学士」の称号を取得でき、さらに高度な専門的技術を修得したい学生のために2年間の専攻科を設けている。

本校では1つの本科「ものづくり工学科」の中に8つの専門工学コースを持っています。つまり、品川キャンパスには「機械システム工学コース」、「生産システム工学コース」、「電気電子工学コース」、「電子情報工学コース」の4コースがあり、一方、荒川キャンパスには「情報通信工学コース」、「ロボット工学コース」、「航空宇宙工学コース」、「医療福祉工学コース」の4コースがある。専攻科「創造工学専攻」としては「機械工学コース」、「電気電子工学コース」、「情報工学コース」、「航空宇宙工学コース」の4専攻がある。平成20年度より独立行政法人首都大学東京へ仲間入りし、産業技術大学院との接続が図られている。

### ○カリキュラムの特徴

本校はくくり入試を実施しており、第1学年では学生はコースに属さないで教養と工学基礎を学習する。第2学年から専門工学コースに属し、専門知識と技術を習得する。第4学年になると専門教員の研究室に4名程度の学生が配属され、ゼミナールを通じて第5学年の卒業研究の準備を行う。第5学年時には教員の指導の下で1年間卒業研究を実施し、研究発表を行う。大学における専門工学の学習に比べて高専では実験実習の時間数が多く、より実践的な技術者育成を目指している。



教養科目と工学専門科目の割合の年次変化

### ○学生生活クラブ等

スポーツ系、文科系、技術系のクラブ同好会が品川、荒川ともにそれぞれ約30あり、学生は5年間の学生生活を有意義に過ごしている。特にNHK高専ロボコン、プログラミングコンテスト、省エネカーコンテスト、鳥人間コンテスト、ロボカップJRなどは高専として特色ある活動である。

### ○学生の進路

学生の進路は大別して就職と進学である。約70%の学生が修得した専門技術を活かして就職する。現在本校の学生への求人倍率は約17倍であり、希望する企業に就職している。進学者の半分が本校の専攻科への進学であり、残りが国公立大学の学部3年生への編入学である。一方、専攻科の卒業生の進路は国公立大学大学院と大手企業への就職が大部分を占める。

### ○地域連携と産学連携

本校は約半世紀前に京浜工業地帯の中に設立され、地域企業との連携活動が継続的に行われている。最近の活動としては、インターンシップ、中小企業家経営塾、地域小中学生向けものづくり教室、企業若手技術者への技術向上支援講座、技術相談と共同研究などを遂行している。詳細は本校のホームページ (<http://www.metro-cit.ac.jp/>) を参照していただきたい。

## 地域との連携を大切にした「職場体験」

練馬区立石神井中学校 主幹教諭 深井 明 美



### 1 はじめに

本校では6年前より「職場体験」を実施してきました。はじめは、進路学習の一つとして行われていた「身近な人の職業調べ」を発展させ、望ましい職業観や勤労観を身につけさせたいと考え、実際に職業を体験させました。次年度より、「総合的な学習の時間」のテーマの進路学習として、2日間の「職場体験」を実施するようになり、現在も続けられています。さらに体験先も地域の事業所を中心に受け入れをお願いするようになっています。今年度は51の事業所に引き受けていただきました。

### 2 「職場体験」のねらい

本校の特色ある教育活動の中に、「地域の人材や社会教育施設を積極的に活用し、地域に根ざした教育活動を行う。」とあります。



スーパーでの職場体験

生徒が職業を体験するばかりでなく、自分が住んでいる地域に目を向ける機会となり、さらに地域の人が地元の中学生と接する機会になればと考え、体験に先立ち、事前学習として、次の6つの講座学習を行っています。①敬語の使い方、インタビューのしかた ②働くこと、職業に対する理解 ③職場体験に向けての心構え ④お礼状の書き方 ⑤報告レポートの書き方

これらを事前に学習することによって、単なる体験だけで終わらせるのではなく、体験を通してコミュニケーション能力や対人関係能力、基本的マナーなども身につけさせることができ、系統立った「キャリア教育」となっていると考えられます。

生徒は職場体験が終わると、各自が体験したことを画用紙にまとめて報告書を作成し、さらに事業所ごとに「職場体験のまとめ」を作成し、その後の進路学習の資料として活用します。また受け入れてくださった事業所にもお送りしています。

### 3 生徒の感想から

- 生き物を相手にする仕事は大変なんだと感じました。1日も休めないし、1日でも水をやり忘れると枯れてしまいます。水のあげ方も花によって違うことがわかった。(園芸店)
- 働くことは我慢強さが必要なんだということがわかった。(小売店)
- 銀行の挨拶はその銀行の印象をお客様に与える大切な行動なんだということがわかった。僕たちは体験だからいいけど、銀行の人はとても大変だとわかった。(銀行)
- 職場体験はとても充実していて楽しかったけれど、これを仕事として毎日やるのはとてもつらいことだと思った。改めて仕事の厳しさを学んだ。(図書館)
- お客さんが買ってくれると「やった!」と喜びがわき、『働いている人はこんな気持ちなんだ、働くってこういうことなんだ』と職に対する意識・意欲が高くなった。(パン製造販売店)

## 有限会社 東新幸社

資本金：500万円 代表取締役：井上正治  
東京都葛飾区四つ木 3-8-13 TEL 03-3691-9166

## 〈創業〉

昭和26年 創業者 井上幸信により墨田区吾嬬町(現八広)にて金属玩具製造業として個人操業開始。昭和29年10月法人(有)新光社に改組後、昭和33年10月現住所へ移転、(有)東新幸社となる。昭和50年頃より金属玩具製造技術を駆使して給排気器具、照明器具(株)オーデリックの製品)等の雑貨品製造に着手。昭和58年(有)マルゼンとの取引開始によりエアーガン製造開始。以来、照明器具、エアーガン製造を柱として、現在55期に至る。

## 〈従業員数〉

38名 (内 組立ライン23名)

## 〈営業拠点〉

本社 四つ木工場  
堀切工場(組立ラインとして、平成19年新設)

## 〈主要営業内容〉

・照明器具・玩具・雑貨品の部品加工から組立～箱詰めまでの製品製造

・照明器具の反射板の自動スピニング加工を含むプレス板金加工

## 〈経営理念〉

常に、「創意工夫」を忘れず「ものづくり」で社会貢献を目指す。

## 〈青年へのメッセージ〉

ものづくりは今も昔も、中小企業が面白いんです!



照明器具と玩具の製品

## 株式会社 エイコー

資本金：3000万円 代表取締役：土屋英一  
東京都葛飾区新小岩 2-7-4 サンシティ新小岩 903号  
TEL 03-3653-7755

## 〈創業〉

昭和35年4月、土屋商事として清掃業を開始。昭和47年6月、株式会社 土屋ビルサービスを設立。従来より建物清掃業を主業務にしてきたが、総合建物管理業への転進を図る。平成6年7月、現在の社名に変更する。

## 〈従業員数・営業拠点〉

従業員数は130名(正社員100名・パート30名)  
東京23区内に本社及び3支店(足立、江東、江戸川)、区外1支店(三鷹)、都外(千葉県市川市)を展開中。

## 〈事業案内〉

建物内外の清掃業務、設備管理業務、警備受付業務、害虫駆除業務、消火設備保守、運動場等維持管理業務及び廃棄物収集運搬業務を行っている。

## 〈経営理念〉

顧客のニーズと期待を先取りした顧客に愛される新サービスの開発及び提案を行い、顧客の要求事項及び法的・規制要求事項を100%満たすサービスを提供し、顧客の評価及び活動の成果を測定・分析し、プロセス及び個別サービスの継続的改善を図る。

## 〈青年へのメッセージ〉

現在当社の業務に関わっている人員の平均年齢はかなり高い水準にあり、業務内容も裏方的な存在です。しかしながら、昨今、建物の高層化や、インテリジェント化が進み、ベテランと若手の融合を図らなければ、企業として生き残れません。皆様の力が必要となることが、大幅に増えると思いますので、華やかさはありませんが、進むべき道を探す時、当社のことを思い出していただければと思います。

## 専修学校に学んで ～在校生からのメッセージ～

青山製図専門学校

建築工学科 3年

原 正子

私は今、建築の専門学校に通っていますが、入学する前は、何の専門知識もなく、建築家の名前や歴史的な建物すら知らず、ただ、ほんの少し建築に興味がある程度でした。

そして、入学して2年半、課題に追われる毎日です。建築設計や製図の実技課題は、とても大変ですが、終わったあとは達成感があり、その分やり甲斐もあります。ちょっと難しそうなる建築法規や施工、設備などの授業も、実践的でとても充実しています。また、教えて下さる先生方が現役で仕事をされているという点でも、私達にとっては刺激的で、非常に頼りがいがあります。

2年次には、インターンシップ(就業体験)で実際に設計事務所にお世話になりました。学校では学べない事がそこには沢山あり、どんな小さい事でも吸収しようと必死でした。たった2週間でしたが、この時の経験で、建築に対する考え方の幅が大きく広がった気がします。

これから、今まで学んだ事の集大成として、卒業設計が始まります。まだまだ学ぶ事が沢山ある中で、自分の納得いく作品が出来るか、不安がありますが、精一杯やりたいと思います。

正直、日々の課題などに追われ、『自分は本当に建築がやりたいのか』と、悩んだ時もありまし

た。しかし、『将来、1級建築士の資格を取って、第一線で仕事がしたい』という夢があるので、ここまでやってこられました。そして、周りには同じ夢を持ち、切磋琢磨する心強い仲間達もいます。今後、また悩んだりするかもしれませんが、将来の夢の実現に向けて、一歩ずつ前に進みたいです。

皆さんも、自分のやりたい事を選んだら、自信を持って突き進んで下さい。好きな事を学べる時間があるという事は、とても幸せな事です。その時間を無駄にしない為にも、日々の勉強を怠らず、色々な事を吸収し、是非、自分を磨いて下さい。きっと夢が現実のものになるはずですよ。



国際観光専門学校 東京校

ホテルデュアル学科 10月生  
ホテルオークラ内定

三 谷 恵 子

私が、「ホテルで働きたい」と思うようになったのは今から3年程前のことです。

それまで描いていた自分の夢に疑問を持ち始め、「自分が本当にしたいことは何か」と考え、「人と接することが好き」「サービス業に就きたい」と思うようになりました。そして、目指すなら最高の場で最高のサービスを提供したいという思いから、私はホテルという場を選びました。

私が在籍しているホテルデュアル学科は「働きながら学ぶ」というシステムになっています。それは、昼間は学校で座学の授業を受け、その後、実際にホテルに行き実践という形で研修するものです。私はロイヤルパークホテルでデュアル生として2年間お世話になりました。ここでは、座学だけでは、知ることの出来ない、実際にお客様と接することで、社員の方々と同じ職場で働くということの責任の重さ、人間関係の難しさ、大切さを実感しました。

これから先、社会人として働いていく上で、人との付き合いは、切り放せないもので、最も重要なものになっていくことと思います。これまでに

築いてきた人間関係を大切に、これから出会う人とのつながりも大切に「また来るね」「また来たよ」こんな言葉をお客様から頂けるような関係をつかっていきたいと考えています。

今、目の前にあることを一生懸命にやる。という日々の繰り返し、非常に大きな強い自信になっていつか自分の元にかえってくると思います。皆さんもいろいろなことに挑戦し、経験を積み重ねることで、希望する職業に出会い、その仕事につけるように頑張ってください。



## 平成 20 年度 見学・研修会報告

(花王株式会社 すみだ事業所・東京工場)

今年度も夏季休業日中に見学・研修会が実施されました。

花王株式会社すみだ事業所・東京工場の協力を得て、8月22日(金)の午後、76名の参加を得て開けられました。

開会にあたり、主催者として西澤宏繁都産振会長の挨拶の後、すみだサービスセンター部長辻寛文様から挨拶をいただき、花王の概況説明とヘルスケア研究の取り組みについて説明後、工場と花王ミュージアムの見学、講義に移りました。

講義では、「花王の目指している“環境対応先進企業”の取り組み」をテーマに環境安全推進本部柴田学様から、「エコシステムの取り組みについて」をテーマに生活者コミュニケーションセンター部長鈴木哲様から講義を受け、花王の環境理念と基本方針、年間サイクル活動の行動、商品についての苦情や質問をデータベース化したり、日報の作成をし、社内の皆が理解、共有できるシステムとし、製造部門、研究部門に生かし、よきものづくりに反映させていることなど、詳しく講

義を受けました。

花王ミュージアムの見学を通して、花王のあゆみを知るとともに“よきモノづくり”のために製品開発、調達、生産、流通、使用、廃棄に至るサイクルで努力していることや企業活動として、品質・安全・環境に配慮した取り組みを知ることができました。

最後になりましたが、お忙しい中、この見学研修会に時間を割いていただいた花王すみだ事業所・東京工場の関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。



## 新 会 員 紹 介

- (株)ソフマップ 代表取締役 野口 進  
昭和 57 年度設立 パソコンを中心にしたデジタルグッズの専門小売業  
〒 101-8601 千代田区外神田 1-16-9 朝風 2 号館ビル  
TEL 03-3253-4255 FAX 03-3253-4203
- 山崎製パン(株) 代表取締役社長 飯島 延浩  
昭和 23 年設立 パン、菓子、米飯類等の製造及び販売、その他仕入れ商品の販売の事業  
〒 101-0032 千代田区岩本町 3-10-1  
TEL 03-3864-3110 FAX 03-3864-3109
- (株)日本化薬東京 代表取締役 石井 繁  
大正 5 年創業 機能化学品、医薬、セイフティシステムズ、アグロの各事業  
〒 123-0865 足立区新田 1-23-1  
TEL 03-5959-5111 FAX 03-5959-5050

- (株)竹 尾 代表取締役社長 竹尾 稠  
明治 32 年創業 洋紙販売・輸出入、物流機械器具システムの販売の事業  
〒 101-0054 千代田区神田錦町 3-12-6  
TEL 03-3292-7090 FAX 03-3292-3690
- 東京工科専門学校  
理事長 山本眞 校長 芦田宏直  
昭和 44 年小山自動車整備専門学校としてスタートし、現在に至る。  
建築工学科、建築科、インテリア科、WEBプログラミング科、WEBデザイン科  
〒 164-8787 中野区東中野 4-2-3  
TEL 03-3360-8831 FAX 03-3360-8830

## 東京都産業教育振興会 ホームページアドレス

<http://www.tosanshin.org/>

### 事務局より

- 会報の発行は、会員の皆様の寄稿協力によるどころが、紙面の充実のため、ますますのご協力をお願い致します。
- 新会員が増えました。より多くの入会をしていただく努力をしていますが、今後とも皆様方のご協力をお願い致します。

発行 東京都産業教育振興会  
〒 163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1  
東京都教育庁都立学校教育部  
高等学校教育課内  
電話 03-5320-6729  
Fax 03-5388-1727  
印刷 有明印刷株式会社

 古紙配合率 100%再生紙を使用しています